

すっぱいレモンをもらったときは
甘くて美味しいレモネードを作ればいいのよ



小児がん啓発活動

レモネードスタンド in ふくおか

2021年8月1日(日)

12:00~17:00

博多駅前広場 (博多口)

レモネードスタンドはアメリカに住むアレックスという小児がんを患った女の子が治療開発の研究資金を集めるために庭先でレモネードを売ったことが始まりです。

私たち「レモネードスタンド in ふくおか」は、この話を聞いた女の子の「私も小児がんの子ども達のためにレモネードスタンドをやりたい!」という一言から始まりました。2009年から活動を始め、現在もたくさんの方々賛同くださり、支援の輪が広がっています。当日は小児がんを経験した子ども達が描いた絵画の展示なども行いますのでぜひお越しください。

新型コロナウイルス感染拡大などで緊急事態宣言等が発令された場合は中止することがあります。感染防止策としてレモネードは既製品を配布いたします。またボランティアの募集は行いません。

集まりましたお金は「公益財団法人がんの子どもを守る会」「認定NPO法人にこすま九州」「NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト」へ全額寄付いたします。

主催：レモネードスタンド in ふくおか実行委員会

共催：公益財団法人がんの子どもを守る会 九州北支部、認定NPO法人にこすま九州
NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト

後援：福岡県、福岡市、毎日新聞社、西日本新聞社

協力：麻生芳雄商事株式会社、株式会社倅乃舎

問合せ先：認定NPO法人にこすま九州 TEL 092-553-6408 / Mail info@nicosuma.net

小児がんは、子どもにおこる悪性腫瘍(がん)の総称

日本では毎年2,500人程の子ども達が小児がんと診断されています。医療の進歩により大部分の病気が治るようになりましたが、それでも子どもの病死原因の1位で、毎年500名程の子ども達の命が失われています。

大人が罹患するがんは、肺がん・胃がん・大腸がんなどの臓器の表面部に起こる”上皮がん”といわれるものです。高齢になるにつれ増えるとともに、食事や飲酒、喫煙などの生活習慣があると考えられています。これに対して子どものがんは、白血病・悪性リンパ腫などの血液がん、骨肉腫・神経芽腫・脳腫瘍などの”肉腫”といわれるものがほとんどです。血液や筋肉、神経などの組織、脳などの体の深い所から起こるため、症状が出にくく、早期発見が難しいという特徴もあります。

もう一つ大きな違いはがん細胞の動き方です。大人のがんの多くは1cmの大きさになるのに数年~5年以上かかるといわれています。そしてがんがある程度の大きさになると、他の部位へ転移が始まります。一方、子どものがんは、全身転移のある状態で見つかることもあります。

小児がんの種類と部位



小児がんの子どもと家族が抱える悩みや負担

長期にわたる療養生活

小児がんの治療には半年から1年以上の長い入院・通院生活は避けられず、子どもだけではなく家族にも身体的・精神的な負担があります。特に入院中は子どもの社会生活が大きく制限されるため、遊び・学習・友達との関わり等の機会をどのようにもつかということも大切です。



治療後の問題

薬や放射線、手術などの治療や病気そのものの影響が後々まで残ったり、時には治療後にも影響が出てくることもあります。また、治療中のつらい体験や記憶が心の傷となってしまうこともあり、身体的なことだけでなく、精神的なこともあります。



周囲の理解

小児がんと診断されてから、また治療後にも進学や就職・結婚など生活の場が変化して新しい人と出会うたび、友達や学校の先生、職場の上司や同僚、周囲の人などに病気についての説明が必要になることもあります。入院や通院すること、学校や仕事を休むこと、あるいは治療の影響による外見や変化、生活の行動制限といった自分の状態についてどう説明するか、本人や家族が悩むこともあります。



仲間の存在

入院中は同じような境遇の仲間と過ごすことが多いですが、退院後は病気を経験した仲間と出会うことは少ないです。小児がん経験者が出会い交流する場は不安や悩みを遠慮せず話すことができる貴重な場所となります。